



第24回上田八木・金融政策サーベイ(2018年12月)の結果について

～全回答者が今回のMPMでの政策変更なし、「無担保コールON金利」の予想も概ね前回並みとなった一方で、利付国債の金利予想については、「2年利付国債」および「10年利付国債」において「上昇」と予想する先が減少。

2018年12月18日(火)
上田八木短資株式会社

【調査の総括】

- 全回答者(172先)が今回のMPMでの政策変更なしとの見方。前回とほぼ同じ内容。
- 「無担保コールON金利」についても、ほぼ前回と同じ見通し。
- 「2年利付国債」「10年利付国債金利」の予想については、「上昇」が減少した一方で、「低下」が若干増加。

【調査の概要】

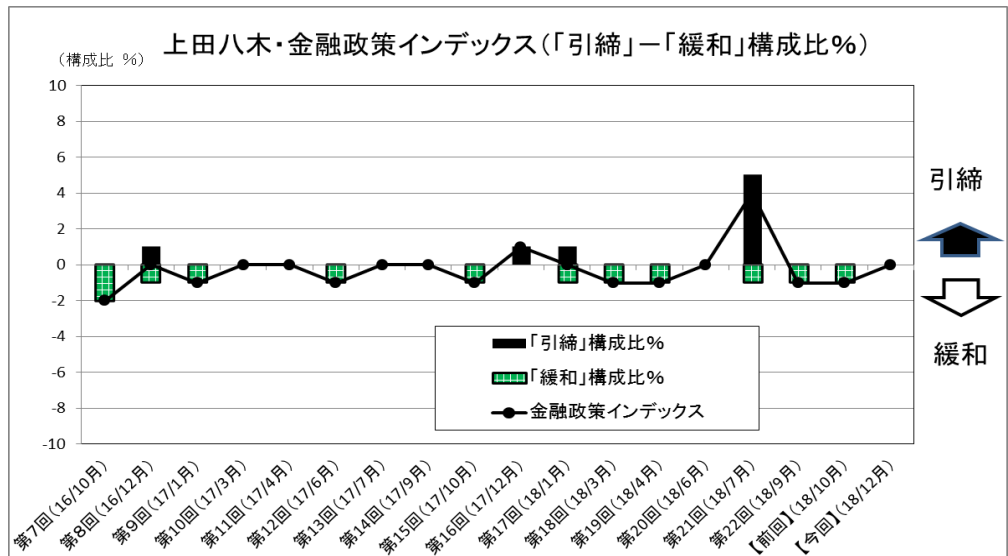
調査対象	弊社と取引のある銀行、証券会社、保険会社、事業法人などの市場取引関係者(192先)
調査内容	日本銀行の金融政策決定会合における結果予想と、3か月先の金利見通し
調査方法	2018年12月13日～17日の3営業日間、電話等によるヒアリングにより実施
回答率	89.6% (回答者数172先<Q1における回答者数>)

【調査結果】

(Q1) 日本銀行の次回の金融政策決定会合(12月19日～12月20日)における決定について

全回答者が「不変」の見方。

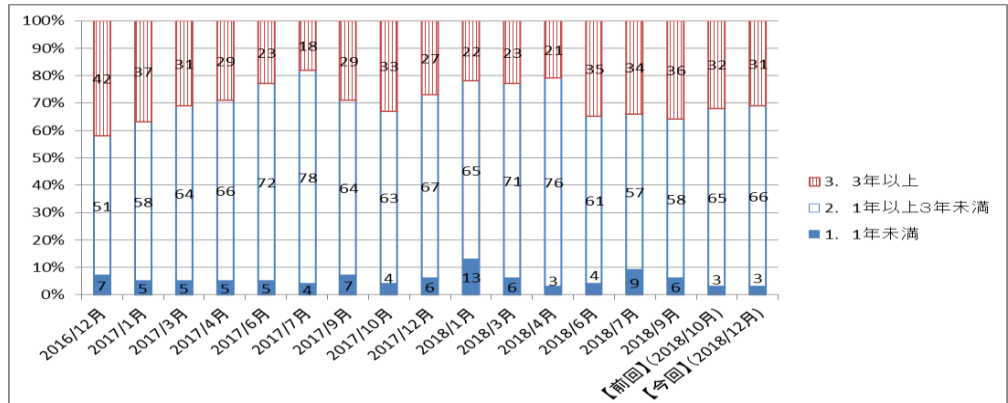
上田八木・金融政策インデックス(「引締」-「緩和」構成比%)は、「0」(前回は▲1)であった。



(ご参考)

【今回17回目となる追加質問:Q5】現状の金融緩和(オーバーシュートコミットメント含む)からの出口開始時期は?

1年以上3年未満と回答する先は66%に増加(前回65%)、3年以上と回答する先が31%に減少(前回32%)。



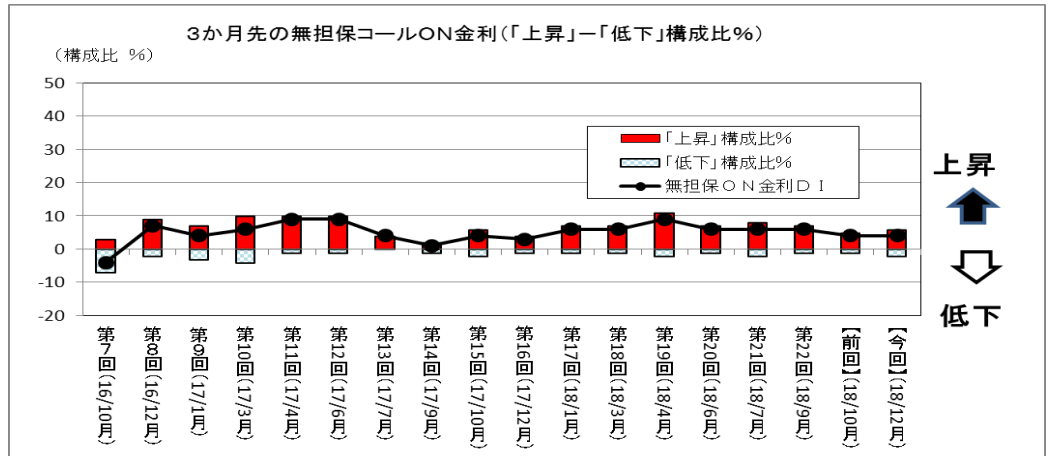
(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の92%が「不変」と予想。2%が「低下」を予想、「上昇」とみている先は6%であった。

「上昇」とみる先は前回から1%ポイント増加の+6%（前回5%→今回6%）。

「低下」とみる先は前回から1%ポイント増加の+2%（前回1%→今回2%）。

「不変」とみる先は▲2%ポイント（前回94%→今回92%）。



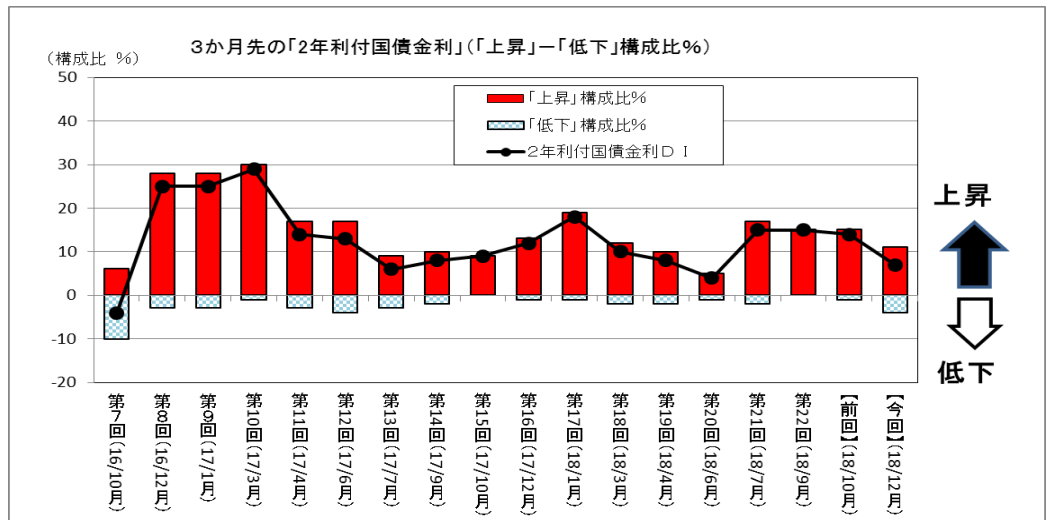
(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の85%が「不変」を予想。「低下」を予想する回答者4%。「上昇」を予想した先は11%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は▲4%ポイント（前回15%→今回11%）

「低下」とみる先は+3%ポイント（前回1%→今回4%）。

「不変」とみる先は+1%ポイント（前回84%→今回85%）。

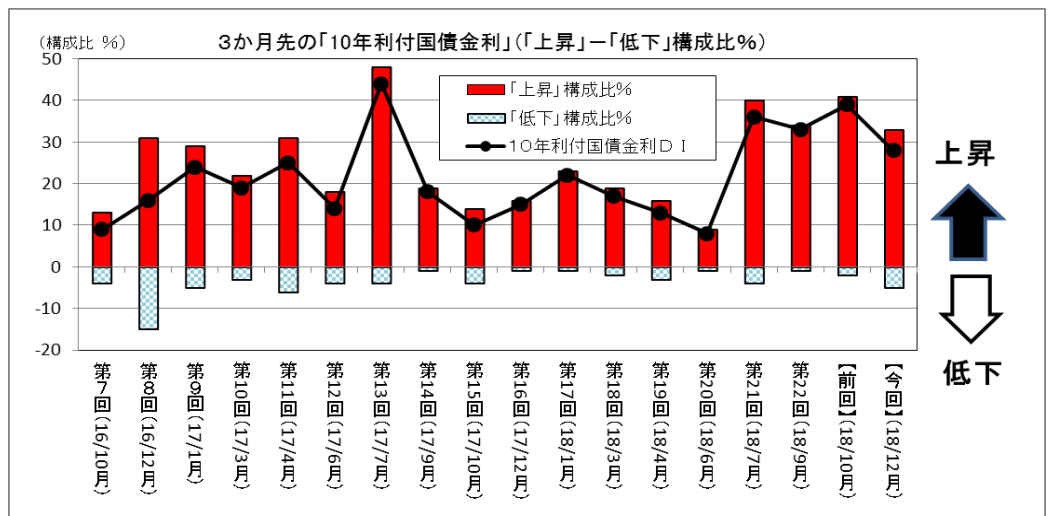


(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の62%が「不変」を予想。5%が「低下」、「上昇」を予想した先は33%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は▲8%ポイント（前回41%→今回33%）。「低下」とみる先は+3%ポイント（前回2%→今回5%）。

「不変」とみる先は+5%ポイント（前回57%→今回62%）。



【本調査に関する照会先】
企画部 島本、保元（電話 03-3272-0293）



第24回上田八木・金融政策サーベイ(2018年12月)

発表日：2018年12月18日（火）14：00 上田八木短資株式会社

調査日	2018年12月13～17日
調査先	192先
回答率	89.6%

(Q1) 日本銀行の次回の金融政策決定会合（12月19日～12月20日）における決定内容について、どのような結果になるとみているのか。

	(今回)	(前回10月29日)	変化幅
緩和	0 (構成比%)	1	▲1
不変	100	99	+1
引締	0	0	+0
上田八木・金融政策インデックス (「引締め」-「緩和」構成比%)	0	▲1	+1

(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回10月29日)	変化幅
低下	2	1	+1
不変	92	94	▲2
上昇	6	5	+1
短期金利予想DI	+4	+4	+0

(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回10月29日)	変化幅
低下	4	1	+3
不変	85	84	+1
上昇	11	15	▲4
2年国債金利予想DI	+7	+14	▲7

(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回10月29日)	変化幅
低下	5	2	+3
不変	62	57	+5
上昇	33	41	▲8
10年国債金利予想DI	+28	+39	▲11

質問(Q5) 現状の金融緩和（オーバーシュートコミットメント）からの出口開始時期はいつ頃か。

(ここでの「出口開始時期」はオーバーシュートコミットメントを考慮したもので、例えば消費者物価が4月に目標にワンタッチした後に6か月後にその時期が来ると予想すると「出口開始」は10月という意味です。資産買入れの残高が減っても物価目標を達成していなければ「出口開始」とはみなしません)

	(今回)	(前回10月29日)	変化幅
1. 1年未満	3%	3%	+0%
2. 1年以上3年未満	66%	65%	+1%
3. 3年以上	31%	32%	▲1%